

2019 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2791600436		
法人名	ベタープレイス株式会社		
事業所名	グループホーム めいの家		
所在地	大阪府吹田市五月が丘北6-12		
自己評価作成日	2020年1月20日	評価結果市町村受理日	2020年2月27日

【事業所の基本情報】

http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2791600436-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護保険市民オンブズマン機構大阪
所在地	大阪府大阪市東成区中道3-2-24(JAM森の宮事務所2F)
訪問調査日	2020年2月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

めいの家スタッフは認知症サポーター養成講座の講師(メイト)が5人おります。内2人はフォローアップメイトの講師ができる者です。地域の方々や小学校・中学校・PTA・警察・企業など認知症の理解を深めるため講座に力を入れています。また、近くにエキスポシティがあり、利用者と共に掛けることが増えました。観覧車に乗ったり、ニフレルで動物と触れ合ったり、お買いものをしたり、個別の対応で楽しんでます。今期よりスタッフ全員で介護士の作る便利グッズに取り組んでいます。車いす用ののカッパや、風が吹いても固定されているひざ掛けなどです。立ったまま不安定にならず靴を履くための靴べらや、手が上がらなくても髪がとけるブラシなども考案中です。めいの家のブランド立ち上げにご家族も協力してくださっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

長年管理者として運営に関わってきた代表が、利用者・家族・職員への熱い思いから自分で事業を経営することになり2年経ったグループホームです。「いつも、どんな時も皆がそばにいてくださっていることで乗り越えられた」と全ての人達への感謝の気持ちで運営しています。「地域の中に溶け込む活動」は、今では、地域にとってなくてはならない存在となっています。地域や家族会の協力を得ながら実施している、夏祭り・文化祭・クリスマス会・餅つき等は、年々参加者が増え地域に定着しています。小中学校・PTAでの認知症の理解を深めてもらう講座だけではなく、企業からの要請で介護離職を防ぐための講座も行いました。代表の揺るぎない考えは職員にも浸透し、「Be Smile・Be Happy(笑顔で幸せ)」の理念のもと、出逢ったみんなの「夢叶う明日」に取り組んでいます。昨年度から、介護士が考える生活便利品の商品開発にも取り組んでいます。管理者は職員の人材育成にも工夫し、「職員のケアプラン」による支援を行っています。様々なことを楽しみながら工夫している職員が支える利用者の暮らしは、いつもどこからか利用者中心の会話や笑い声が聞こえてくるグループホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果（グループホームめいの家 3 階ユニット）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「Be smile Be happy(笑顔で幸せに！)」を理念としています。「ここに来てよかった」「あなたに会えてよかった」「生きていてよかった」いろんな「よかった」を応援し、地域の自治会、子供たちの協力を得て、夢叶う明日に向けて取り組んでいます。	「Be Smile Be Happy(笑顔で幸せに！)」を理念に掲げ、「地域に根ざし心豊かに暮らしていこう。『ここに来てよかった』『あなたに会えてよかった』『生きていてよかった』いろんな『よかった』を応援します」の方針で、代表・管理者以下職員一丸となり実践しています。理念は、フロア内に掲示され、ホームのパンフレットに分かりやすく記載されています。利用者の表情、家族会の活動、職員の顔、行事での参加者住民・子ども達の笑顔から、理念の実践が伺えます。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	2019 年の春祭りは「平成」から「令和」に変わってからの春祭りだったので、「令和祭～世界の偉人たち～」と題し、マリーアントワネットやザビエル・まつこデラックスなど個々に考え仮装しました。仮装している職員を見て利用者も「着たい！」とドレスを着たりと一緒に楽しみました。 そして夏祭りは踊れないくらい沢山の子供たちが参加してくれて盛り上がったのですが、皆が楽しみにしていた花火が大雨の為中止となってしまいました。でもどうしても花火を見せてあげたい！！と行	「地域の中に溶け込む活動」は、今では、地域にとってなくてはならない存在となっています。地域や家族会の協力を得ながら実施している、夏祭り・文化祭・クリスマス会・餅つき等は、年々参加者が増え地域に定着しています。クリスマス会は、地域への一年のお返しと考え、事前に欲しいものをリサーチし、子ども達にプレゼントしています。ホームの行事には地域にビラを配って地域の住民を招待しています。ホームの行事ポスターを自宅や近くのコンビニが店に貼って協力応援してくれます。濡れていたラミネート加工をしてもらっていた感動的なことも		

			事担当の強い希望もあり、冬のイルミネーション点灯式の時に「冬の花火」を初めて行いました。いつも以上にパワーアップしたイルミネーションに花火・ビンゴ大会ととてもたくさんの方が参加してくれた点灯式になりました。 1年の最後は毎年12月28日に行うお餅つき。一年間行事に参加してくれた子供たち・お母さんたちも参加してくれて一緒にお餅をつき、食べ、最後まで残ってくれて、沢山交流することができました。	ありました。小中学校での認知症を理解してもらった講座では、紙芝居を作成したり、職員たちで劇も取り入れ工夫して受講者に分かりやすいと喜ばれています。また、企業からの要請で、認知症への理解を深め、介護離職を防ぐ講座にも出向きました。 昨年から、めいの家に関わっているすべての人が幸せにすごすためにできることとして「介護士が考える生活便利品」の開発と商品化に取り組んでいます。 長年、地域住民や子ども達の人気者だったホームの愛犬かん太が亡くなりましたが、今でもかん太の話をして冥福を祈ってくれる人たちがいます。	
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	中学校の職業体験・福祉体験、新人教員初任者研修・夏のボランティアなどを積極的に受け入れ、「認知症とは？」・「GHとは？」・「車いすにのってみよう！」などさまざまな実習に取り組んでいます。 中学生の職業体験・福祉体験に加え、西山田小学校や竹見台中学校などたくさんの学校の授業で福祉について、認知症についてのお話をさせて頂きました。認知症について、わかりやすく紙芝居をしたり、劇をしたり、車椅子の体験をして、たくさんの感想のお手紙を頂きました。		

			感想をいただいた時に書かれていた質問に対しては、1人1人にお返事させていただきます。授業を聞いて自分のおばあちゃんに対して想いがかわったなど嬉しいお手紙を頂きました。 今年で6回目になる「わたしにできることプロジェクト」が3月に行われます。介護・認知症について、少しでも多くの人達に来ていただける様、市民の方々が認知症について知ってもらう機会のプロジェクトにするために、日々話し合いをしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族会役員・自治会役員・Dr.・Ns. 域包括センター職員・社会福祉協議会職員・GH職員が集まり、2ヶ月に一回開催しています。施設の行事を軸に地域・医療等さまざまな視点から話し合っています。	運営推進会議は2か月に1回、年6回開催しています。家族会役員、地域住民代表、地域包括支援センター職員、グループホーム主治医、訪問看護師、ホーム職員等がメンバーとなり話し合っています。運営推進会議開催日は必ず全家族に案内状を出して参加を促しています。会議では、ホームの活動状況や取り組み等を報告し、参加者から意見・評価・助言を得て、ホームの運営に活かしています。日曜日の午後の開催は、参加しにくいとの意見もあり、開催曜日・時間を検討していく考えです。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り	2ヶ月に1回のグループホーム連絡会への参加、市主催の介護フェアへの参加等を行っています。介護フェアの時は各グループホームから利用者数人集まり、コ	市担当者とは都度連絡をとれる関係を築いています。地域包括支援センター職員には運営推進会議で情報提供や助言を得ています。地域包括支援	

		組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ーラスの発表をしました。コーラスグループは吹田市のグループホームのメンバーで構成されていて「あおぞら」といいます。ご依頼があればいろんなイベントに参加しています。 又、市担当者、市内グループホーム職員との情報交換を行い質の向上に取り組んでいます。 近隣のグループホーム等には、夏祭り・お餅つきなどの行事のお誘いなど催しの時にお手紙をだしたりして、お誘いしたりもします。 上記のグループホーム連絡会にて立ち上げた「わたしにできることプロジェクト」では、吹田市の全てのグループホームの職員が集まり、チームを作りプロジェクトを進めています。 1年前から大阪大学医学部の学生さんもメンバーに入っています。一緒に脳の話の紙しばいを作ったり幅が広がりました。今年はこのプロジェクトでも高齢者の生活が少しでも楽で楽しいものになるようアイデア商品を作るチームも始めました。	センターより、自宅での生活が難しくなってきた方の入居依頼があり、受け入れに際して地域包括支援センター職員、ホーム職員と協議を重ねる機会があり、市との連携がより密になりました。市主催の介護フェアでは、市内のグループホームから利用者が参加し、コーラスの発表を行いました。市内グループホーム連絡会にも参加しています。グループホーム連絡会で立ち上げた「わたしにできることプロジェクト」では、市内全てのグループホーム職員が集まり取り組んでいます。今年は、プロジェクトで、高齢者のためのアイデア商品を作る取組も始めました。 また、市と連携し、吹田市での介護事業所の取り組みを紹介していく企画にも参画しています。 市からの介護相談員も訪問し、利用者の話を聞いてもらっています。	
自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を	2ヶ月に一度内部研修を行い、身体拘束の意味を理解し、禁止の対象となる行為を考え、話し合う機会を持っています。面会時に家族とも話し合いの機会を持っています。	「身体拘束ゼロの実現をめざします」とマニュアルを作成し、研修会を繰り返し行って、身体拘束をしないケアを実践しています。玄関は中からはいつでも開錠が可能です。利用者はエレベーターで自由に移動をしています。階	

		正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		段も自由です。利用者が外出したい仕草を見つけるといつでも職員と一緒に出かけます。利用者が一人で外に出ることがあっても、近所の住民とは顔見知りでホームまで送って来てくれる関係にあります。 代表や管理者は、言いたいことが言える職場を心がけ、職員のストレスにも配慮しています。家族から寄贈されたピザ窯で焼いたピザを皆で食べる等、職員が集まり食べながら話し合う機会を多く作っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待事例から考える外部研修に参加し、それをまた、内部研修として全職員に伝えてもらいました。法制度を理解し、全員で意識を持って取り組んでいます。そして、一人一人どう考えているかグループワークを行いました。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員に制度を理解してもらえよう話し合いをしています。		
自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容

9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書を見ていただき説明しています。理解を得られるまで細部に渡り説明し、幅広い情報の提供を心がけています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会があるおかげで、今まで以上に家族の協力が大きくなりました。家族会役員の呼びかけで、たくさんの家族が行事に参加してくださり、大掃除をしてくださったり、旅行の時には、一緒に温泉につきり、宴会を楽しみ、修学旅行のように枕を並べて寝ます。その中で話をする機会も多くあります。 面会時には声をかけ、電話・メール等でも意見・苦情を聞き取っています。職員にはミーティングなどで情報提供し、問題発生の際は、早期解決を今までと変わらず続けています。 また、介護支援相談員が月2回訪問してくださるので、利用者や家族の意見を聞くことができます。	家族会があり、サークル活動や行事を通じて、家族同士や職員との交流が行われています。一泊旅行や年間の行事・大掃除等にも多くの家族が参加しています。家族会主催の勉強会も開催しています。運営推進会議に家族が参加し、運営や行事について積極的に意見を述べています。 家族アンケートも実施しました。改善して欲しい意見は真摯に受けとめ、改善しています。また、お褒めの言葉もたくさん寄せられ、職員の励みとなり士気が高まりました。「めいのお家のおかげで自分の時間が持てた」と喜んでくれた家族の声に、ホームの理念の実践が伺えます。主体的にホームの活動に関わる家族会の存在は、ホームの大きな応援団となっています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	主に職員会議・各フロア会義で意見を聞くようにしています。又、管理者は個別に職員と話し合いも行っています。	職員会議やグループホーム会議、行事やそれぞれの持ち場の会議で意見を出し合い、サービス向上に向けて話し合っています。日常的にも意見が言いやすい雰囲気づくりを大切にしています。 他職員から「良いところ・尊敬するところ・好きなどころ」「苦手なところ・直してほしいところ・悪いところ」の評価を記入してもらい、自分自身を再確認する機会	

				ともなっています。これをもとにケアプラン風様式に「スタッフケアプラン」を作成し、職員育成にあたっています。 年間の多くの行事は、職員が主体的に取り組み、利用者と一緒に楽しんでいます。 リーダーは新人職員を指導する際は、相手に伝わる言葉で説明し「丁寧な言葉」「言葉を尽くす」ことを心がけています。 職員が、様々なことに自由に取り組める職場環境は、職員の定着に繋がっています。代表は、「私が頑張れる原動力は、一緒に働いてくれる職員」と職員へ感謝しています。	
自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今後、職員個々の努力や実績等を把握、査定することが出来るよう基準作りをしました。各自が向上心を持って働けるような職場環境の整備に努めていきたいです。 今年も全職員のいいところ悪いところアンケートを実施し、個別に話合っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を実施しています。本年度は、認知症ケア・人権について、感染症・食中毒について、虐待、感染予防と発生時の対応について等です。又、職員より希望のあった研修内容も取り入れています。 今年は保育に1人、介護福祉士講座に1		

			人と職員が研修に行っているのです、全体で支え現場を守っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市が主催するグループホーム連絡会・ケース検討会議・地域連絡会議・担当者会議等に参加し、情報交換を行っています。GH 連絡会では、他施設と合同で認知症サポーター養成講座を開催し、12月には介護職員の交流会も企画しました。また、3月には「わたしにできることプロジェクト」と銘打ち、吹田市の介護職員による事例発表会を行います。		
自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時より担当になるCWが細かく、本人の希望・夢・生活歴を聞き取り、入所から1ヶ月を目途に、本人・家族・職員と担当者会議を行い、ご家族と共に本人の安心を確保するように努めています。		

16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思い・考え方・希望問題点等を聞き取り、日々の生活を共に考えるようにして、信頼関係を築く努力をしています。電話やメールで密に連絡をとり。何でも言い合える関係作りを目指しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入念な聞き取りをします。常に必要なことは何か、最優先することは何かを、広い視点で考えるよう努めています。その上で、日々の変化等スタッフ全員で共有し、一日も早く落ち着いた生活ができるよう見守っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自慢できること・得意なことは、皆に教えてもらい、苦手なことは、皆でサポートする関係を大切にします。洗濯物畳や洗い物、食事準備や掃除、得意なこと等、役割を持ち取り組んで頂いています。		
自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事の度にお知らせし、一緒に楽しむ機会を作っています。身体状態、生活全般の不安・質問等については、電話やメール、面会時に聞き取りを頻回に行うようにしています。信頼関係を築いていく努力をしています。		

20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	部屋には、自宅で使っておられたタンスや布団、大切にしておられた物や写真を持って来てもらうようにしています。友人や自宅近所の方にも行事をお知らせしたりします。行事などで仲良くなった利用者に会いに、各階を行き来するなど、自分のフロア以外の人とも仲の良い関係を見守っています。	職員会議やグループホーム会議、行事やそれぞれの持ち場の会議で意見を出し合い、サービス向上に向けて話し合っています。日常的にも意見が言いやすい雰囲気づくりを大切にしています。 他職員から「良いところ・尊敬するところ・好きなどころ」「苦手なところ・直してほしいところ・悪いところ」の評価を記入してもらい、自分自身を再確認する機会ともなっています。これをもとにケアプラン風様式に「スタッフケアプラン」を作成し、職員育成にあたっています。年間の多くの行事は、職員が主体的に取り組み、利用者と一緒に楽しんでいます。 リーダーは新人職員を指導する際は、相手に伝わる言葉で説明し「丁寧な言葉」「言葉を尽くす」ことを心がけています。 職員が、様々なことに自由に取り組める職場環境は、職員の定着に繋がっています。 代表は、「私が頑張れる原動力は、一緒に働いてくれる職員」と職員へ感謝しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	いつも利用者同士の仲に入っているわけではなく、個々の関係を大切に見守っています。又、コミュニケーションがいき違わないよう援助することを心がけています。		

22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	行事には必ず参加して下さいます。家族会だけでなく賛助会員の方は必ず行事に参加して下さい、旅行や忘年会にも来て頂きました。賛助会員でない方も、年末にはメールやクリスマスカードなどをくださったり変わらない関係が続いています。		
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントシートにある項目を、担当職員がゆっくり聞き取る所から、一人一人の夢や、これからの生活に対する希望を探し、夢叶うよう支援しています。	利用者調査票、ライフヒストリー、ホームでの生活が一式になった利用者情報から、一人ひとりの思いや希望を共有できるようになっています。「ホームでの生活」では、希望や好きな活動等はもちろん、嫌な話題等も把握し、利用者の尊厳に配慮しています。日常の関わりの中での気づきや発見は、記録に残し、共有しています。離職者が少なく、利用者と職員の馴染みの関係ができていることも、質の高い個別支援に繋がっています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートにある項目を担当職員がゆっくり聞き取り、見えてきた生活歴・性格などから、家族と共に考える時間を持つようにしています。		

25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全員、日々の過ごし方はさまざまなので、一人一人に対応できるよう心がけています。また、日々訴えもさまざまなので個別に聞き入れる余裕を持ち対応しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本筋は「夢を叶えること」。家族の要望も含め、今一番大切なこと、今一番必要なこと、楽しく暮らすための課題を常に探しています。	「本人の夢を叶える」を基本視点として介護計画を作成しています。日常的に支援していることが介護計画になっていて、簡潔で専門用語は使わない、利用者・家族に分かりやすい介護計画です。計画は、3か月毎に見直し、フロア会議で毎月カンファレンスを実施しています。短期目標を申し送りノートに記載し、介護計画が実践できる工夫をしています。計画作成担当者は、「利用者・家族・職員の意見をよく聞くこと」を心がけて介護計画作成にあたっています。「この介護計画ではなく、こういう風に」「この介護計画では印が押せない、作り直して」とまで言ってくれる家族が出てくれることを願い、利用者のより豊かな暮らしの実現のため、家族と一緒に考えていくことを大切にしています。	
自己	外部	項 目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	

27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録はもちろん、連絡ノートを活用しています。また、問題がある場合は、早急に集合し、全員で話し合うようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ターミナル期の家族の宿泊、行事への参加、近隣参加、行きたい所へ、行きたい時に行きたいと言えるように、どんな訴えでも伝えることのできる、わがまま言える居場所作りを目指しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のスーパーマーケット・喫茶店・ドラッグストア・コンビニやショッピングモールなど行きたい所に行きます。エキスポシティがオープンしてからは、皆で買い物や観覧車を楽しんでいます。行事や消防訓練等を通じて、地域の方との交流も大切にしています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各階月に2回、往診ドクターの診察があります。歯科・鍼灸の訪問もあります。又、精神科・皮膚科・眼科等は地域のかかりつけ医を作っています。家族と職員が同行し、安心して受診できるよう配慮しています。また、セカンドオピニオンも行い、より適切な医療を受けられるよう支援しています。	毎月2回協力医の往診を受けています。訪問看護師による健康管理も実施しています。安心して医療が受けられるようにセカンドオピニオンも行い本人・家族の意向を大切に医療の支援に努めています。	
自己	外部	項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容

31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	医師と訪問看護師との連携と、「いつもと違う」という介護士の状態変化の気づきを大切に、少しでも早く適切な診察が受けられるように、一丸となって努力しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療連携医の最終判断により、入院を決定することが多いですが、入院後は家族と職員が常に連絡を取り合い、入院先の治療医の意見・経過等も一緒に聞き、一日も早い帰所に向けて、積極的に支援しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に関しては、Drより指示のあった段階で家族と話し合いを重ね、Dr.・N S.・CW・家族(本人)同席の元、方針を決定しています。そして、職員全員でそれぞれの看取り方を考え、進めます。又、延命するかどうか、看取りについての希望確認書を入所時に家族に実施しています。希望確認書の意向の変更は随時可能で、話し合いの際にも、意向の確認をし、ケアに反映しています。	重度化した場合や看取りや終末期については、まず入居時に希望の確認を実施しています。その後意向の変更はいつでも対応しています。終末期については、医師から指示が出された時に医師・看護師・ケアマネ・家族・(本人)が話し合い方針を決めて行きます。事業所でできる事を職員全体で考え話し合いを重ねチームケアに努めています。家族会の総会の度に看取りの話を行っています。家族会主催で終末期の勉強会も実施しました。ホームで看取りをした利用者の家族から「あなたと一緒によかった」と言ってもらい看取りに取り組む励みになった事例もあります。	

自己	外部	項 目	自己評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修として、事故防止につながる勉強会を実施しています。63歳の若年性認知症で後見人のついておられる方のケースでは、ものすごいスピードで認知症が進行していくので、起こりうるケースを想定し、グループワーク等を頻回にしています。利用者の急変対応や、その時に必要だと思われる内容を委員で話し合い、研修内容に反映させています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年は、7月・11月に消防訓練を実施しました。消化・避難・通報の訓練に加え、地震発生時にはどんな事が起き、どう対応するかも訓練しています。	毎年2回防火訓練を実施しています。災害マニュアルを作成し共有しています。災害時を想定し現場でどのように対応したらいいのか職員が考える訓練もしています。災害時の備蓄品は各階の分かり易い場所に置いてあります。地域の便利屋さんとの関係も築き協力関係を整えています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の思いを実現すべく、情報収集し、常に何を願い、求めているかを知るための努力をしています。常に敬語ではありませんが、その人の一番落ち着く丁寧な言葉で話します。	プライバシー保護・個人情報保護について研修しています。職員は、利用者が安心できる言葉づかいを心がけています。一人ひとりの利用者の決定や選択を大切にしてホームでの生活を支援しています。家族や地域との交流に積極的に取り組んでおり、外部の目が入る機会が多く風通しの良い職場環境は、職員の質の向上につながっています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	忘れてしまうことが多くなってくると、なかなか、以前していたことや、したいことが言葉になって表れません。雑談などしながら、思っていることを引き出すことも大切ですが、今までの生活の中でしていた手芸や歌や、洗い物・米とぎなどの日常の家事を一緒にしながら、寄り添うことで気持ちが表出したりすることもあります。また、今、興味を持ったことも探りながら聴き取ります。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝食は、起きて来られた方からで、特に時間は決めていません。昼食は12時に席につきますが、それも決まりはありません。夕食も、お腹がすいたら…という感じです。入浴はDr.からの指示がない方は入りたい時間に、日にちも特には決めていません。ペースになる個々の生活を把握し、それぞれの日常と関わり、ゆっくりと過ごしてもらっています。 めいの家には定められた必要なマニュアル以外にマニュアルはなく、業務表や職員の一日の流れもありません。日常を決めるのは常に利用者です。		

39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に一度の訪問美容師にカットをお願いし、洋服・下着等はできる限り一緒に買いに行き選んだり、好きな色を聞いて本氏の好む物を選んだり、言葉にできない人は「今この人に何が必要か」を常に考え、本人の好きな物を理解し、一緒におしゃれを楽しんでいます。		
自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に盛りつけ、一緒に配膳、一緒に席につく、いろいろな話をしながら一緒に食べるようにしています。又、食後も一緒に片づけられる人もおり、出来る範囲でお手伝いして頂いています。食べ物が口に溜まってしまう方には、どんな工夫をしたらスムーズに食べられるかを考え色々試し、少しでも楽しい食事ができる様努力しています。メニューも好きなもの、食べたいものを聞いたり、季節のものや郷土料理など、職員と利用者が一緒に考えています。	2階・3階のテーブルには、それぞれ手作りのランチョンマットに食事が準備されます。職員も同じテーブルで食事をしながらテレビを観て会話をしながらさりげなく見守りや声掛けをしています。朝食は各ユニットで用意しますが、昼食・夕食は1階の厨房で準備します。手作りの寿司の日を設けたり、好みや希望を聞き、献立作りにつなげています。行事食は利用者・家族・職員・デイサービスの利用者が共に楽しむ事ができます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取表は毎日つけています。食意が低下した人、体調の悪い人がいた場合は、食事量も記録しています。水分は、好みがあるので、その人それぞれに応じた飲み物を提供しています。その人に応じた水分量をDr.・Ns.と相談し、対応しています。		

42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎週火曜日、訪問歯科医・歯科衛生師が往診します。必要な方は見てもらいます。又、方法等を教えてもらい、日々の口腔清拭はCWが手伝っています。個々で、歯ブラシの形状も洗い方も違うので、できないところはCWが手伝い清拭保持に努めています。		
自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	テープ止めのおむつ常時着用の方は一人もいません。全員下着はパンツ着用、尿漏れのある方はパンツの中にパット使用、尿意のない方・定かではない方は適時トイレへの誘導を行っています。一人一人に合った物を探し、気持ちよく日々を暮らすため、排泄の工夫は一丸となっています。	各階に明るく清潔感があるトイレが2か所あります。一人一人の排泄パターンや習慣を活かしてその人に適した排泄用品を準備しています。できるだけ長くパンツでいてもらうことを心がけ、気持ちよく過ごす事ができるように工夫をして排泄の自立に向けた支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	まず、食物繊維の多い食事、足りないとこは、ごまきなこ・牛乳・バナナ・芋類・オリゴ糖・ヨーグルト等を楽しんで食べてもらうようにしています。お茶は、ごぼう茶・もろこし茶・てん茶などで便通を促しています。適度な運動(散歩・買い物等)の促し、十分な水分摂取を意識して行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で	入浴日は決まっていません。Dr.からの指示のない方は、週に2～3度は最低入ってほしいと思って行っています。意思決	2階は富士山の絵、3階は水族館のように魚のシールがたくさん貼られた個浴です。分かり易い手すりを設置、足	

		曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	定できない方は促しますが、決定できる方においては入りたい時対応です。ただ入浴するのではなく、入浴中にしか聞けない話などもあり、ずっと同じ職員ではなく、色々な職員が介助に入れる様になっています。足元がちゃんと見える様、乳白色以外の入浴剤を揃えてあります。	元が見えるような入浴剤を用意し、安全面や楽しみの配慮や工夫をしています。入浴日や時間は決まっていますが、週2～3回入り、好みのシャンプーやリンスを使用している人もいます。同性介助にも心がけ、入浴中はゆっくりと話しをして入浴を楽しんでいます。	
自己	外部	項 目	自己評価		
			実践状況		次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	意思決定できない方においては、午前・午後と休息時間をもうけています。夜は2時間を上限とし、その方の体調や状況に合わせた頻度で巡回し、眠れない夜が続けば、ホットミルクなど一緒に飲んだり、話をしたりして過ごします。意思決定できる方は促しで、後は本人の生活習慣に合わせています。ベッドカバーなど本人の好きな色・好きな柄にして、安眠できる様工夫しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬がどんなに怖いことかをホームDr.から話してもらい、利用者の薬に興味を持てるようピルブックも各階に置き、処方箋も必ずしっかり眼を通し、薬に変更があった時には個別日誌・連絡ノートに書き、全職員がサインするように徹底して		

			います。全職員参加で誤薬マニュアルを作成し、誤薬防止に取り組んでいます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	みなさんに、家事に役割を持ってもらったり、買い物に同行してカートを押してもらったりしています。車椅子の方は、洗濯ものを畳んでもらうなど、個々の役割があります。裁縫の得意な方にはボタンつけや裾上げなどをしてもらっています。そして、好きなこと・得意なこと・自慢できることを聞き取り、楽しみながら意欲を引き出せるよう考えています。		
自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ピクニック・花見等…計画が必要な場合には入念な会議をしますが、日々、今日は何をしよう、どこへ行こうと考え、実施することが生活と考えますので、特別なものはありません。近所の公園に行く、ドラッグストアに行く、甘いものを食べに行くなど、その季節、その人にあわせて行っています。業務日誌に外出の記録を記入して、全体の状況が把握できるようしています。	特に季節の行事として外出する事もありますが、日常では、近くの公園やコンビニ・ドラッグストア等買い物にでかけます。朝食のパンを買いに行くなどその時々に出かけています。業務日誌に外出の状況を記入して職員全体で把握できるようにしています。日常の外出をより楽しめるように努めています。	

50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全ての金銭管理は事務所でしています。出掛ける時、必要な物を購入した時は、領収書で、月一度家族に報告します。出掛けた時、利用者によっては財布をご自分で持ってもらうこともあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話は、訴えのある時に利用してもらい、職員が家族あてにかけた時には本人にもかわっています。家族から贈り物が届いたとき、記念日、体調不良時、体調が良かった時、外出予定が決まった時、買い物をする時、家族に会いたい、話したいと訴えがあった時などです。		
自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者それぞれが使いやすいように配慮する努力をしています。たとえば、椅子の形をそれぞれの座りやすいものに合わせたり、個々に合ったクッションを使ったり、トイレの手すりを長くして1本足すことで、立位がしっかりとれる様になったり、誰もが安心できるようにしたり、入浴時の椅子も個々に使いやすいものであったりしています。利用者と相談しながら窓の開閉をし、TVやCDをつけるようにしています。好きなDVDやYouTubeで昔の音楽番組などテレビで流して、みんなで観たり、歌本で一緒にうたっています。	玄関前のスペースは地域のイベントやホームのイベントに利用できるオープンな庭です。各ユニットは居間から廊下がまっすぐと伸びて各居室につながっています。部屋の引き戸は長めの手すりがついていて安心して利用できます。表札は個性豊かに自筆で書かれ、味わいのある温かみを感じます。入居者一人一人が落ち着いて生活できるようにさりげなく木で目隠しをした棚に日用品が並んでいます。高いところの埃にも職員は気を配り、清潔で明るい空間は、落ち着きのある穏やかな雰囲気です。	

53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで一人になることがあるとすれば、皆がご自分の部屋に帰ってしまった時だけです。CWと2人で話したい、利用者同士で話をしたい、一人になりたい時は、リビング横の事務所か、それぞれのお部屋を使っています。また、ご本人専用湯呑・茶碗・箸を使用することや、慣れた席がご自分の席だと覚えられことで、リビングにも自分の居場所があると思っていただけによいと考えています		
自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ほとんどの方が、今まで自宅で使っておられたダンス・鏡台等を持って来られています。きれいに片づいているだけが良いと思わないので、いろいろな所に支えがある、物のいっぱいある部屋が落ち着く方もいます。それぞれの方の今までの生活を知り、一緒に考えています。	新しく入居した人は、壁紙のリフォームに際し、自分でお気に入りの柄を選ぶ事ができ好評です。入居してホームで暮らすことが理解できるようになってから選んでもらう細かい配慮をしています。自宅で使用していたテーブルや椅子を持ち込んでお茶の時間を持ち、楽しんでいる家族もいます。それぞれの入居者が思い出を持ち込み落ち着いて過ごせる場所として支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋の出入口は少しスロープになっているし、浴室は段の大きな階段になっていたりするので、バリアフリーではありません。その度声をかけながら生活しています。特に個別の道具の工夫はありませんが、「職員がそばにいること」「職員が声をかけること」が安全に繋がればと思います。		